

---

# 黒ネコ

藍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒ネコ

### 【Nコード】

N2547V

### 【作者名】

藍

### 【あらすじ】

僕、瀬下翼は望月莉緒に恋をした。

でも、君と僕の間にはどこまでもどこまでも続く長い試練が待っていた。

友達と争った。親の反感も買い続けた。それでも、君を愛し続けた。僕の純愛、聞いてください。

## 君との出会い（前書き）

初小説です。

まだ中1で小説は全く書き馴れていません。

みなさんの足元にも及びませんが、読んでくださるとうれしいです。

## 君との出会い

あの日、僕は空を見上げた。快晴。360度どこを見渡しても、雲一つ無い。

そりやそうだろうな。天気予報で前々から今日この日をチェックし続けていたんだから。

今日は待ちに待ったデートの日。

僕の彼女、「望月莉緒もちつきりお」との。

グニヤッと、突然視界が歪んだ。そして、僕は嘆いた。

「…なんでなんだ。どうして莉緒なんだ…」

目からは涙が零れ落ちた。

そう、彼女は……。

…僕「瀬下翼せしもつばさ」と望月は高校1年。僕も望月も受験し、華咲南高校かさきみなみこうこうに入学した。少しレベルの高い高校だ。僕の中学校からは、僕を含めて7人が合格。残念ながら、仲が良かった友達は落ちてしまった。そいつは少し離れた燐前中央高校りんぜんちゅうおうこうこうに通うことになった。そっちには、僕の中学の友達が数えきれないほどいる。

望月の中学からこっちに来たのは望月だけだった。1人で中学からこの高校に入学したのは、望月だけだったらしい。最初は1人だっ

たが、望月のさっぱりとした性格や面倒見の良さで、クラスに打ち解けるのは簡単なことだった。

4月も半ばになり、桜のピンクはもうほとんど見られなくなった。僕も徐々に知らない人と仲良くできるようになってきた。僕に人見知りとかいう感情がなくて良かったなと思った。

？「おい、翼ッ！メシの時間だぜ。」

翼「はいはい。あ、俺今日弁当だから。」

？「えー、マジかよ…。じゃあねーな。購買行ってパン買ってくるから、食べないで待ってるよ！」

翼「了解。待ってるよ。」

こいつは、「平原達也<sup>ひらはらたつや</sup>」。ここにきて、仲良くなった友達。元気いっぱいの明るい性格。意外にも頭がいい。

？「つたく、達也のヤツ…。早くしろよ。」

こちらで愚痴ってるのは「白川涼汰<sup>しらかわりょうた</sup>」。髪の毛を濃いめの茶で染めている。タバコも吸っていると聞くから驚きだ。でも、根はけっこういいヤツで優しい。

達「たっだいまあー。パン買ってきた。」

涼「よし、じゃあ食おうぜ。いたたまーすつと…。」

翼「…いただきます。」

なんだかんだで忙しくも充実した毎日を送っていた。

7月中旬。夏休みを目前にした僕たちは浮かれていた。

涼「なあ、今日カラオケ行かねえ？」

翼「…んーと、今日は予定空いてるな。いいよ、行こう。」

涼「よしッ。じゃあ、達也は？」

達「全然行ける！」

翼「うん、〇〇店の前で6時半集合な。」

高校生になり、かなり自由になれた僕は今をとて楽しんでいた。

？「ちよつと、待ちなさいよ。たつー！」

キンキンに響く声。そこに立っていたのは「小坂いちご」。

シヨートの髪が似合う、僕のクラスの級長。少し細めの目に、小柄な体。活発でみんなのリーダー的存在。達也から幼なじみだと聞いていた。

達「なんだよ、いちご。」

い「アンタ、まだ数学のプリント出してないでしょ？出すまでカラオケ禁止ー！」

そんなあー、許していちごオ、などと叫ぶ達也をおいて僕らは歩き出した。

涼「じゃあな、達也ッー！」

い「…ねえ、私たちも行ってもいい？カラオケ。」

帰り際に小坂がいきなりこんなことを言い出した。

翼「いいけど…たちってことは他にも？」

い「うん。莉緒と紗菜なんだけどいいかな？」

紗菜というのは「藤岡紗菜」

藤岡は僕の知り合い。…ていうか、小中共に同じ。でも、それほど親しくない。

涼「よつしゃあー！！OKOK。行こうぜッ。」

涼汰は藤岡をよく気にかけていた。僕が望月を気にしていたように。この一言でいちごはすべてを悟ったらしい。

い「はあーん。なるほどね。ってことは、瀬下さんは莉緒でしょ？」  
人差し指をたてて、僕の口の前にもってくる。…凶星。顔が赤く染まっていくのが分かった。

涼「そーなんだよ。俺は藤岡さん狙いで翼は望月さん狙い。」  
ピストルを持つ動作。そして、バキューンと撃った。

カラオケ前には、僕、涼汰、小坂、望月、藤岡が集まっていた。

最初に私服についての話になったのを覚えている。僕の私服はなかなかの好評で、3人に褒められた。

望月は髪にワックスをかけてほしい、と言った。明日からそうするよ、僕は優しく笑いかけた。

やっぱり可愛いなあ、望月は。サラサラの長い黒髪が僕を魅了した。部屋に入ってから、かなり盛り上がった。元気な性格なのが集まればこうなるのであろう。

…ここまでは本当に楽しかったなあ。望月ともたくさん話せたし。でも、この先に起こる悲劇なんて知らなかった。

知りたくなかったんだ…。

## 君との出会い（後書き）

どうだったでしょうか？

まだまだ続きます。

誤字、脱字等があれば是非教えてください。  
感想などもお待ちしています。

読んでいただきありがとうございます。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2547v/>

---

黒ネコ

2011年10月9日13時04分発行